



発行 自衛隊札幌病院
豊友会事務局

第76号
令和 7 年 8 月



「着任にあたり」

自衛隊札幌病院長

陸将 森 知久

この度、3月24日付をもちまして自衛隊福岡病院より自衛隊札幌病院へ着任いたしました森陸将でございます。

北海道は、我が国の安全保障上、地政学的にも極めて重要な地域であり、その中で自衛隊札幌病院が担う役割は年々大きくなっております。平素より地域住民の皆様、関係機関、そして豊友会をはじめとする全国の諸先輩・関係各位のご支援とご尽力により、当院が信

頼される医療機関として活動を継続できていることに、まずもって深く感謝申し上げます。

自衛隊札幌病院は「心の通う信頼される病院」という理念のもと、日々診療にあたるとともに、有事における衛生支援、災害時の医療対応など、多岐にわたる任務を担っております。とりわけ、コロナ禍や自然災害への対応においては、職員一丸となった献身的な活動が高く評価されてまいりました。こうした実績に改めて敬意を表し、今後もその誇りを絶やすことなく、より一層の連携強化と質の高い医療提供に努めてまいります。また、昨今の安全保障環境は急速に変化しており、衛生機能にも実効的な対応力が求められています。自衛隊札幌病院は、北部方面隊における衛生科の骨幹として、部隊の任務遂行を支える衛生基盤の強化に尽力してまいります。

このような中、病院長として微力ではありますが、地域に根差し、心の通う信頼される病院の一助となるよう全力を尽くす所存であります。今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。



「自衛隊札幌病院 創立70周年を迎えて」

自衛隊札幌病院豊友会

会長 今井 智仁

この度、自衛隊札幌病院が70周年を迎え、病院勤務の皆様、また関係される皆様に心よりお祝いを述べさせていただきたいと存じます。物事は創めるより、それを繋げていくことの方がより難しいと言われるます。札幌病院も豊平の地に第一歩を標してから真駒内に更なる歩みを進め、すでに70年となりました。この間に職域病院としての役割だけにとどま

らず、一般へと門戸を開放いたしました。近隣の皆さま、そして札幌市民にとってこれは大きな助けとなっております。私が初めて札幌病院の勤務を命じられたのは1989年のことでした。藤原院長以下、桂田先生、芳賀先生、川端先生、古家先生、石井先生など、まだまだひよこであった防衛医大出身の医官を親身に指導していただきました。年が経つにつれ、札幌病院もOBが出てくるようになると札幌病院の退職者で豊友会という組織ができました。それも今では札幌病院院長も、そして豊友会会長も防衛医大出身者が務められるようになりました。防衛医大も今年は52期生が入校いたしました。久しぶりに大学を訪ねると、学内の緑がとても多く、その昔は細かった木々が太木になり葉が生い茂っておりました。豊平の病院も大きな木が中庭にあたり、枝ぶりの立派な桜の木が春には皆を楽しませてくれたり、准看の裏のサクランボがたわわに実っていたりしました。真駒内に移転し、まばらにみられる木々もこれから歴史を重ねていく後輩諸氏の活躍を見守りながら、大きな木々に成長していくのだろうと思ったりします。私が赴任したころの自衛隊衛生の役割は隊員の衛生管理が主でした。しかし、今はその守備範囲が多岐にわたり、地域を越え、国内はもちろん、時には国を越えての活躍を求められ、実際、数多くの仲間が任務を完遂してまいりました。それにより札幌病院が北海道の衛生の中心であることを示してきたと思います。この経験がさらに積み重ねられ、未来は一体どこまで広がるのだろうと楽しみは尽きません。そして若い医療者たちがどれだけ太い幹になり、皆にその姿を示してくれるのか。私たちの弟たちや妹たち、そして子供や孫たちが、大きく成長していく姿を想像し、70年が80年、そして100年と皆を支えてくれる、さらに太い幹となることを期待するものであります。

《令和 7 年 人事異動等》

春の異動「転出者等」(事務官等)

| 所 属 | 階級等 | 氏 名 | 転出先 |
|--------------|-----|-------|----------|
| 総務部 | 事務官 | 辻原 咲 | 札幌駐屯地業務隊 |
| 企画室 | 事務官 | 屋代 宗敬 | 霞目駐屯地業務隊 |
| 医療安全 評価官付 | 事務官 | 笠井 礼子 | 北部方面總監部 |
| 総務部 | 事務官 | 小泉 翔 | 北旭白老弾薬支処 |
| 診療技術部 | 技 官 | 柴田 千尋 | 札幌駐屯地業務隊 |
| 総務部 | 事務官 | 越田 雅和 | 再任用任期満了 |
| 総務部 | 技 官 | 川原 信弘 | 再任用任期満了 |

春の異動「転入者」

| 転入先 | 階級 | 氏 名 | 元勤務先 |
|-------|----|--------|-----------|
| 病院長 | 陸将 | 森 知久 | 福岡病院長 |
| 副院長 | 将補 | 小俣 二郎 | 統合幕僚監部 |
| 企画室 | 2佐 | 中村 智志 | 衛生教導隊長 |
| 診療科 | 3佐 | 小柳津 美佳 | 中央病院 |
| 診療科 | 3佐 | 小柳津 大樹 | 中央病院付 |
| 総務部 | 3佐 | 杉坂 秀樹 | 第304救急車隊長 |
| 診療科 | 3佐 | 松本 鉄矢 | 旭川駐屯地業務隊 |
| 衛生資材部 | 3佐 | 野原 良介 | 中央病院 |
| 准看護学院 | 1尉 | 池田 幸子 | 北部方面衛生隊 |
| 看護部 | 1尉 | 比嘉 乃園美 | 阪神病院 |
| 看護部 | 1尉 | 越後 麗 | 北部方面衛生隊 |
| 診療科 | 1尉 | 武川 舞子 | 衛生学校付 |
| 診療技術部 | 1尉 | 梅内 久嗣 | 北部方面衛生隊 |
| 看護部 | 2尉 | 片橋 万緒 | 対特殊武器衛生隊 |
| 看護部 | 2尉 | 竹内 華 | 第2後方支援隊 |
| 看護部 | 2尉 | 眞榮城 守智 | 第7後方支援隊 |
| 総務部 | 3尉 | 古島 秀幸 | 第28普通科連隊 |
| 看護部 | 曹長 | 板橋 友則 | 北部方面衛生隊 |
| 総務部 | 1曹 | 松浦 高弁 | 第12施設群 |
| 総務部 | 1曹 | 舟生 裕人 | 第14施設群 |
| 診療技術部 | 1曹 | 川野 陽介 | 北部方面衛生隊 |
| 診療技術部 | 2曹 | 今野 夕加里 | 北部方面衛生隊 |
| 診療技術部 | 2曹 | 野田 朋蒼 | 第11後方支援隊 |
| 衛生資材部 | 2曹 | 森山 清貴 | 北部方面衛生隊 |
| 総務部 | 2曹 | 長嶺 真沙美 | 北部方面後方支援隊 |
| 総務部 | 3曹 | 三浦 貴大 | 北部方面後方支援隊 |

春の異動「転出者」

| 所 属 | 階級 | 氏 名 | 転出先 |
|---------|----|---------|-----------|
| 病院長 | 陸将 | 川口 雅久 | 退職(応募認定) |
| 副院長 | 将補 | 蝶野 元希 | 仙台病院長 |
| 救急科部長 | 1佐 | 永田 高志 | 中央病院 |
| 診療科 | 2佐 | 田仲 宏光 | 福岡病院 |
| 耳鼻咽喉科部長 | 2佐 | 木村 栄子 | 中央病院 |
| 企画室 | 3佐 | 日下 亜紀子 | 陸上幕僚監部 |
| 衛生資材部 | 3佐 | 渡邊 高明 | 東北方面總監部 |
| 総務部 | 1尉 | 長島 雅樹 | 北海道補給処 |
| 総務部 | 1尉 | 高橋 直人 | 第1陸曹教育隊 |
| 病院付 | 1尉 | 小野寺 めくみ | 防衛医科大学校 |
| 看護部 | 1尉 | 黒神 優 | 北部方面衛生隊 |
| 看護部 | 1尉 | 佐藤 圭祐 | 北部方面衛生隊 |
| 看護部 | 2尉 | 安田 千尋 | 熊本病院 |
| 総務部 | 2尉 | 矢口 豊 | 第28普通科連隊 |
| 看護部 | 2尉 | 石川 明日香 | 第11後方支援隊 |
| 看護部 | 2尉 | 飯島 悠香 | 中央病院 |
| 看護部 | 2尉 | 永島 健 | 第5後方支援隊 |
| 看護部 | 3尉 | 園田 涼香 | 第7後方支援隊 |
| 看護部 | 3尉 | 山内 真里奈 | 仙台病院 |
| 看護部 | 3尉 | 磯野 有祈 | 中央病院 |
| 総務部 | 曹長 | 八巻 浩 | 小平学校 |
| 診療技術部 | 2曹 | 阿比留 拓哉 | 対馬警備隊 |
| 診療技術部 | 2曹 | 遊佐 直美 | 南恵庭駐屯地業務隊 |
| 衛生資材部 | 2曹 | 佐藤 幸恵 | 関東補給処用賀支処 |

春の異動「転入者等」(事務官等)

| 転入先 | 階級等 | 氏 名 | 元勤務先 |
|--------------|-----|--------|------------------|
| 企画室 | 事務官 | 吉川 典嗣 | 自衛隊サイバー 防衛隊 |
| 総務部 | 事務官 | 今村 元 | 函館地方協力本部 |
| 医療安全 評価官付 | 事務官 | 山本 こずえ | 航空自衛隊 (第2航空団) |
| 診療技術部 | 技 官 | 山口 美香 | 板妻駐屯地業務隊 |
| 総務部 (再任用) | 事務官 | 菅原 孝 | 北千歳駐屯地業務隊 |
| 総務部 (再任用) | 事務官 | 小川 信 | 防衛医科大学校 |
| 総務部 | 事務官 | 前田 康多 | 新規採用 |
| 総務部 | 技 官 | 漆崎 寛之 | 新規採用 |

夏の異動「転入者」

| 転入先 | 階級 | 氏 名 | 元勤務先 |
|---------|----|--------|-----------|
| 先任診療科部長 | 1佐 | 吉田 昌功 | 仙台病院副院長 |
| 看護部 | 2佐 | 鴨田 のぞみ | 中央病院 |
| 看護部 | 3佐 | 林 千絵 | 防衛医科大学校 |
| 総務部 | 3佐 | 齊藤 祐 | 第375会計隊長 |
| 看護部 | 1尉 | 山崎 恭子 | 第5旅団司令部 |
| 看護部 | 1尉 | 伊藤 若菜 | 北部方面總監部 |
| 看護部 | 1尉 | 尾形 望 | 仙台病院 |
| 診療科 | 1尉 | 中園 史子 | 名寄駐屯地業務隊 |
| 診療科 | 1尉 | 蜂巣 雄介 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 和田 圭史 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 横井 太郎 | 衛生学校付 |
| 総務部 | 1尉 | 八田井 英樹 | 倶知安駐屯地業務隊 |
| 企画室 | 2尉 | 松浦 弘明 | 北恵庭駐屯地業務隊 |
| 総務部 | 2尉 | 寺島 啓友 | 北部方面衛生隊 |
| 総務部 | 准尉 | 伊藤 佳規 | 北部方面衛生隊 |
| 総務部 | 准尉 | 井内 教詞 | 中央病院 |
| 総務部 | 准尉 | 工藤 洋 | 北部方面衛生隊 |
| 総務部 | 曹長 | 茂野 剛志 | 中央輸送隊 |
| 診療技術部 | 曹長 | 上田 崇義 | 中央病院 |
| 診療技術部 | 曹長 | 溜井 啓二 | 第6即応機動連隊 |
| 総務部 | 1曹 | 寺尾 伸幸 | 北部方面衛生隊 |
| 総務部 | 1曹 | 松田 雄大 | 第10即応機動連隊 |
| 看護部 | 1曹 | 大柳 達也 | 中央即応連隊 |
| 衛生資材部 | 1曹 | 植村 光政 | 第14施設群本管中 |
| 診療科 | 2曹 | 坂本 大介 | 北部方面衛生隊 |
| 診療科 | 2曹 | 高島 幹菜 | 第11後方支援隊 |
| 看護部 | 3曹 | 矢野 ゆうか | 北部方面衛生隊 |

夏の異動「転出者」

| 所 属 | 階級 | 氏 名 | 転出先 |
|---------|----|--------|-----------|
| 先任診療科部長 | 1佐 | 田嶋 修 | 中部方面衛生隊長 |
| 看護部 | 2佐 | 中野 友季江 | 富士病院 |
| 診療科 | 2佐 | 梅澤 伸夫 | 富士病院 |
| 衛生資材部 | 3佐 | 青木 久 | 富士病院 |
| 看護部 | 3佐 | 下園 明子 | 福岡病院 |
| 看護部 | 1尉 | 葛原 志穂 | 北部方面總監部 |
| 看護部 | 1尉 | 阿部 陽子 | 真駒内駐屯地業務隊 |
| 診療技術部 | 1尉 | 吉家 直行 | 衛生学校 |
| 総務部 | 1尉 | 高橋 広樹 | 東北方面衛生隊 |
| 診療科 | 1尉 | 河越 環 | 中央病院 |
| 企画室 | 1尉 | 新保 雄也 | 北部方面衛生隊 |
| 診療科 | 1尉 | 鹿村 祐貴 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 江南 慧 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 丹原 悠貴 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 藤田 祐也 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 西澤 夏海 | 衛生学校付 |
| 診療科 | 1尉 | 向井 頌之 | 衛生学校付 |
| 総務部 | 2尉 | 日下 貴史 | 美幌駐屯地業務隊 |
| 看護部 | 2尉 | 小林 莉穂 | 中央病院 |
| 企画室 | 准尉 | 松田 祐介 | 防衛大学校 |
| 総務部 | 准尉 | 山田 哲也 | 中央病院 |
| 総務部 | 准尉 | 岡崎 彦典 | 第7偵察隊 |
| 診療科 | 曹長 | 濱田 紀栄 | 札幌地本 |
| 総務部 | 曹長 | 原 誠治 | 中央病院 |
| 診療科 | 1曹 | 大西 康夫 | 東部方面衛生隊 |
| 診療技術部 | 1曹 | 崎山 剛 | 中央病院 |
| 衛生資材部 | 1曹 | 高橋 大 | 那覇病院 |
| 総務部 | 2曹 | 遠藤 豪 | 第10即応機動連隊 |

令和6年度「定年退官者」

自衛官 : 茂田 照子 (9/20)
 加藤 明美 (10/7)
 佐藤 純子 (12/22)
 今泉 明美 (1/21)
 柿原 淳 (2/1)



《人事異動等》



副院長
陸将補 小俣 二郎

令和7年3月24日付で副院長に着任しました。前職の統合幕僚監部では後方補給官（衛生）として衛生機能の変革に係る施策と各種オペレーションに励んでいました。歴史と伝統ある自衛隊札幌病院で勤務できることを大変光栄に思うとともに、副院長という重責に身の引き締まる思いです。現在の安全保障環境は決して安定していません。自衛隊は災害対処を含めてあらゆる不測事態に迅速対応することを求められています。北部方面隊の衛生がこれら任務に適切に対応するためには衛生機能の強化が必要であり、北部方面隊唯一の自衛隊病院である自衛隊札幌病院のリードやサポートが重要となります。企画室長、外科部長、救急科部長も兼務していますので、病院機能、各種教育訓練、診療、関係機関との連携などで積極的に貢献していきたいと思っております。北部方面隊勤務は初めてでして自然に囲まれた雄大な北海道の生活をとても楽しみにしています。豊友会皆様にはご指導、ご鞭撻を賜るとともに、引き続き自衛隊札幌病院へのご協力をお願い申し上げます。

《行事紹介》

第29代病院長 森 陸将 着任式

自衛隊札幌病院は、令和7年3月25日（火）第29代病院長森陸将の着任式を挙行了。森病院長は、参列した職員を前に「自衛隊は今、国家防衛戦略に基づき2027年度までに日本が主たる責任をもって対処し、同盟国などの支援を受けつつ日本への侵攻を阻止・排除できるように「防衛力の抜本的強化」を、そして自衛隊衛生は、自衛隊員の壮健性の維持とともに有事において危険を顧みずに任務を遂行する隊員の生命・身体を救う組織への変革「衛生機能の変革」を求められている。それは北部方面隊の基幹病院である自衛隊札幌病院も同じであり、北部方面隊の部隊・隊員の壮健性を向上させるとともに、北部方面隊の衛生機能を変革し、有事の際に隊員の生命・身体を救うことができる病院、衛生科部隊を創造する。」と訓示し、北部方面隊の基幹病院としての使命を踏まえ、統率方針として『変革』を掲げ、それを具現化するため職員には、『挑戦』を要望した。着任式終了後、病院施設を巡視し、現状を確認するとともに職員を激励した。自衛隊札幌病院は、北部方面隊の衛生機能の要として今後着実に改革を実行するため森病院長を核心に職員全員がプロとしての自律性をもってたゆまぬ研鑽を行い如何なる困難をも乗り越えることを胸に誓った。



第29代病院長（森陸将）



巡 閲



病院長初登庁



幹部挨拶（総務部）



現状説明（会計課）



職員激励（看護部）

《行事紹介》

自衛隊札幌病院創立 70 周年記念行事

自衛隊札幌病院（病院長 森陸将）は、令和7年6月14日（土）真駒内駐屯地において自衛隊札幌病院創立70周年記念行事を挙行了。今年、真駒内駐屯地へ移駐後10年の節目でもあり、御来賓には北海道医師会長、北海道防衛局長、札幌地方隊友会長及び第16代病院長を始めとする歴代7名の病院長等、部内外から多数の御臨席を賜った。行事は節目の年に相応しく、記念式典、記念植樹、訓練展示（ICLS）、開院70年の歴史展、家族向け施設見学及びUAVによる人文字撮影といった多くの催しを行った。また、北部方面音楽隊による華やかな音楽演奏により式典に花を添えた。

森病院長は、式辞で「70周年の栄えある式典を迎えることができましたのは、ひとえに地域住民の方々や関係諸団体の皆様のご理解、ご協力とご支援、歴代病院長を始めとする多くの諸先輩方のご尽力の賜物である。」と深く感謝を申し上げた。

また、これまで積極的な御支援・御協力いただいた豊友会（団体）、鳥越 俊彦様（豊友会前会長）、石井 良文様（元病理委託医師）及び五十公野 修（准看護学院講師）、また、真駒内駐屯地への移駐に大きく寄与された和田 良作様（札幌地方隊友会長）、松倉 富士人（豊友会事務局員）、1団体5個人に対し、病院長より感謝状を贈呈した。

自衛隊札幌病院は、これからも職員一同心を引き締め、より一層地域の方に親しまれ、心の通う信頼される病院を目指し努力していく。



式 辞（札幌病院長）



感謝状贈呈（豊友会長）



記念植樹（歴代病院長）



国旗に対し敬礼



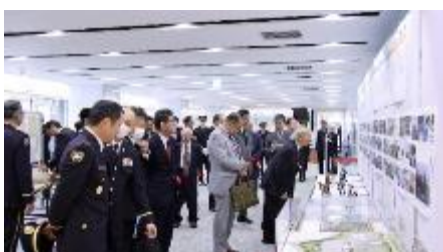
音楽演奏（北部方面音楽隊）



旗手・旗衛隊



家族施設見学



開院70年の歴史展示



ICLS訓練展示

思い出の病院勤務

札幌病院勤務（2006年8月～2009年7月）の思い出は、札幌病院のオープン化や新館建設のための真駒内駐屯地への移転の決定など画期的な事業が2つもあった。しかし、私が最も印象に残ったのは、病院が一丸になって取り組んだ「北部方面新型インフルエンザ対処訓練」であった。

訓練を始めた動機は、死亡率約10%というSARS（重症急性呼吸器症候群）が中国で起こり、2003年には、近隣諸国に広がり、感染国を震撼させたからだ。その国の医療従事者は、自分が感染するのを恐れ、病院や患者から逃げる者も少なくなかったという。幸い日本には上陸しなかったが、SARSのような新型ウイルス感染症が日本にも波及した際、同じようなことが起こり、現場が混乱し自衛隊に出動要請があるだろうと思った。その任務を全うさせるためには隊員を新型ウイルスに感染させてはいけない。そのため、札幌着任直後から訓練を重ね、3年目に方面訓練となった。



第22代病院長
陸将 西川 博

その訓練の概要は

期 日：平成21年（2009年）5月22日（金）～24日（日）

準備期間：3年

参加人員：550名（衛生科隊員を中心）

見学者：240名（内局、陸幕、全国の衛生科隊員及び札幌市医療関係者）

訓練内容：病院機能すべてにわたる項目。特にN95マスクのフィットテストを丹念に行うなど医療従事者への感染予防に力を入れた。

奇しくも、この訓練1ヵ月前の2009年4月にメキシコで新型インフルエンザが起こり、5月初めに日本に上陸し全国に感染が拡大していく最中での訓練となった。そのため多くのマスコミから広く報道され、自衛隊への信頼と期待を得た。

実際、当時の札幌市長が市中の感染指定病院の枠を超えた感染者を札幌で受け入れるよう北方総監に要請があった。その知らせに接した時には身の引き締まる思いがした。

この北部方面の訓練が全自衛隊の新型ウイルス訓練の嚆矢となり、各地で新型ウイルス訓練が積み重ねられた。

そして、2020年にCOVID-19の出現となり、ここで自衛隊衛生が大活躍したのは御承知の通りである。

自衛隊中央病院がクルーズ船から大量に入院患者を受け入れた時、私は心配して中央病院長（北部方面訓練時の副院長）に電話をした。彼は、「10年前の方面訓練の焼き直しの様なもので問題ありません。」との返事だった。

クルーズ船対応が終わった3月22日の新聞に「自衛隊は2,700人を投入したが、感染者は無かった。多数の陽性患者を受け入れた各地の自衛隊病院でも院内感染は確認されず、感染予防策が徹底し有効であったことを報じていた。

現在、COVID-19は落ち着いた感はあるが、新たな感染症の出現は考えられる。

2025年4月1日、国も感染症危機に備え、新しい組織「国立健康危機管理機構（J-IHS）」を発足させた。

自衛隊衛生も訓練をバージョンアップしながら、新しい感染症に万全を尽くされる事を願う。

豊友会事務局便り

事務局長 小林 誠

1 事務局長挨拶

会員の皆様には、日頃から自衛隊札幌病院豊友会の活動にご協力いただきありがとうございます。今年、北海道も初夏から厳しい暑い日もあり、身体が慣れないうちの暑さに熱中症で体調を崩された方も多数発生し、改めて気候の変動を実感することとなりました。残暑も厳しいことが予想されておりますので会員皆様並びにご家族様のご健勝を祈念申し上げます。

令和7年度北部防衛衛生学会懇親会支援を実施（令和7年1月22日）し、6月14日には自衛隊札幌病院創立70周年記念行事支援と記念祝賀会を盛大に開催することが出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げますとともに今後とも引き続き、ご指導・ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

2 令和7年度定期総会・役員会等

(1) 令和7年度役員会

令和7年4月6日（日）20名の役員の参加を得て自衛隊札幌病院会議室において、令和7年度豊友会役員会を開催しました。例年どおり前年度事業報告・収支決算報告及び今年度の事業計画・予算計画の審議、役員の交代について審議し、有意義な役員会となりました。

(2) 令和7年度定期総会

ア 日 時 令和7年6月14日（土）1700～

イ 場 所 ホテルライフオート

ウ 今回の役員会の内容

歴代の病院長の皆様のご参加を得て、上記役員会の内容に加え役員活動の有償化を検討することを報告いたしました。また、予算執行（記念植樹費用）及び報告要領について貴重なご意見を頂き、活発な総会となりました。

(3) 令和7年度自衛隊札幌病院創立70周年記念行事への参加・協力及び豊友会の懇親会の実施

ア 日 時 令和7年6月14日（土）1800～（110名参加内豊友会員42名）

イ 場 所 ホテルライフオート

ウ 叙勲・長寿者等への記念品の贈呈

(ア) 叙勲受章者への記念品贈呈

【瑞宝単光章】 工藤 洋幸 様

(イ) 長寿者への記念品贈呈

【米寿】 石川 雅久 様

3 令和8年予定

(1) 北部防衛衛生学会支援

ア 時 期

令和8年1月下旬予定

イ 場 所

未 定

(2) 役員会

ア 前期役員会 4月実施予定

イ 後期役員会 10月実施予定

(3) 豊友新聞の発行

ア 年2回（9月・1月発行）

イ 改正事項が有れば併せて配布資料発送

(4) 令和7年度豊友会入会者（令和7年1月～現時点）

・鈴木 智史 様 ・川口 雅久 様 ・山田 幸治 様 ・茂田 照子 様

・佐藤 純子 様 ・新井 敏博 様 ・菅原 和広 様 ・佐藤 浩三 様

(5) 令和7年長寿者記念品贈呈予定者（令和7年8月現在）

米寿者：桂田 光彦 様（以上1名）

傘寿者：川端 弓雄 様（以上1名）